

籾水分情報 Vol.11

令和6年9月18日
農業技術研究センター

高温の影響により、例年より出穂が早まりました。気象庁は今後も高温になると予報しており、登熟は早く進み、収穫期の前進が予想されます。高温時には玄米の成熟よりも帯緑色籾の減少が遅れることがあるため、刈り遅れないよう籾水分を確認し、25%になったら収穫を開始しましょう。また、高温時には籾水分のばらつきが大きくなるため、平均値だけではなく、その分布も刈取適期判定に重要です。そこで当センター玉井試験場内水稻ほ場の籾水分状況を調査し、原則として、毎週火、金曜日に公表しています。

ほ場の観察や籾水分の確認と併せて本情報を活用いただき、適期の刈取りを行い高品質米を生産しましょう。

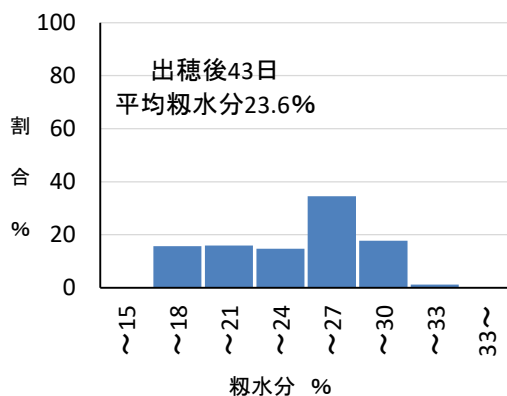
9月17日現在の状況

◎ 5月29日植「彩のきずな」

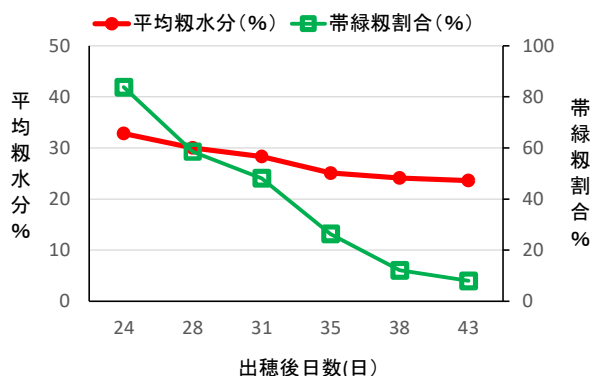
(出穂期：8月5日、出穂後43日、出穂～測定前日までの積算気温1213℃)

- 籾水分の平均値は23.6%です。単粒の籾水分は21%以下が3割以上、その内1割5分以上が18%以下まで低下しています。帯緑籾割合は7.9%、出穂～測定前日までの積算気温は1213℃といずれも収穫適期の目安を過ぎています。速やかに収穫作業を行いましょう。また、収穫後の過乾燥は胴割粒や水浸割粒（精米を水に浸したときに割れる粒）による品質低下の要因となるため注意しましょう。秋雨前線の影響を受ける期間に入り、今後数日は降雨と高温が予想されています。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。

*5月29日植「彩のきずな」の情報提供は今回で終了します。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移

* (参考) 早植栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安
登熟積算気温 900~1200℃、帯緑籾割合 50~10%

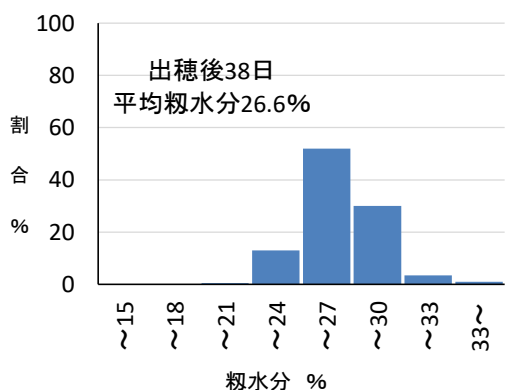


○5月29日植「彩のきずな」、出穂後43日（9月17日）の玄米（篩目1.8mm）

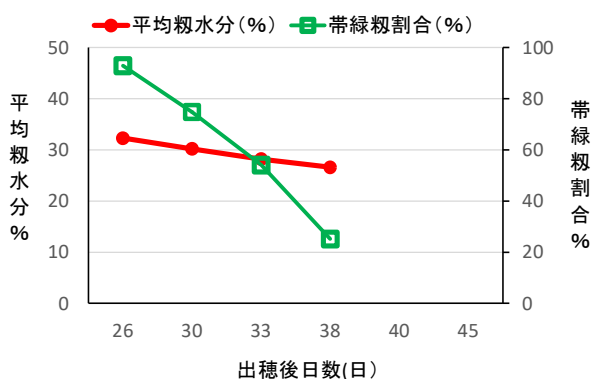
◎ 5月21日植「彩のかがやき」

（出穂期：8月10日、出穂後38日、出穂～測定前日までの積算気温1065℃）

- ・ 粳水分の平均値は26.6%です。単粒の粳水分は27%以下のものが6割5分以上に増加しています。帯緑粳割合は25.2%、出穂～測定前日までの積算気温は1065℃といずれも収穫適期の目安に達しています。粳水分の低下が緩慢な要因として、写真のように障害を受けた青未熟米が混在している影響が考えられます。これらの退色を待ってからの収穫では刈り遅れとなるため、速やかに収穫作業を開始しましょう。また、週末以降、秋雨前線の影響により雨天が予報されています。連続した降雨により収穫適期を逸しないよう予報をこまめに確認しましょう。



○粳水分の分布



○平均粳水分、帯緑粳割合の推移

*（参考）早植栽培「彩のかがやき」の収穫適期の目安

登熟積算気温 910～1110℃、帯緑粳割合 穂の下部、3割程度に青みが残っている頃

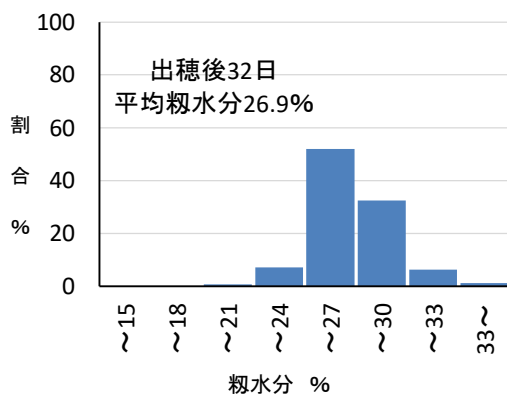


○5月21日植「彩のかがやき」、出穂後38日(9月17日)の玄米(篩目1.8mm)

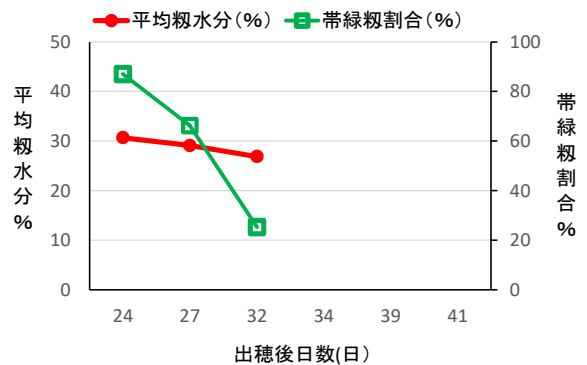
◎6月25日植「彩のきずな」

(出穂期:8月16日、出穂後32日、出穂～測定前日までの積算気温882℃)

- ・ 粳水分の平均値は26.9%です。単粒の粳水分は27%以下のものが6割程度に増加し、帯緑粳割合は急激に低下しており、収穫開始目前です。ほ場を観察し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを計画する等、収穫の準備を行いましょ。また、秋雨前線の影響を受ける期間に入ったため、連続した降雨により適期収穫を逸さないよう予報をこまめに確認しましょ。



○粳水分の分布



○平均粳水分、帯緑粳割合の推移

* (参考) 普通期栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安

登熟積算気温900~1100℃、帯緑粳割合30~10%

* 単粒水分の測定方法: 午前10時30分頃、中庸な1株からサンプリングした約10本分の穂を脱粒し、2.1mm目の篩により不稔粳を除いた粳を単粒水分計により測定(2反復)